第5回「しがwebアンケート調査（県外）」の結果について

1. 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に他府県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の概要

（1）調査対象　首都圏および京阪神地区在住の満 18 歳以上の個人
（2）標本数　1,000 人（首都圏 500 人、京阪神地区 500 人）
（3）調査方法　インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査
（4）調査期間　令和2年 12 月3日（木）～ 12 月7日（月）
（5）調査会社　株式会社クロス・マーケティング

3. 調査項目

テーマ：移住に関する意識
（1）「移住意識全般」（市町振興課）
（2）「農山村への移住意識」（農村振興課）
（3）「ワーケーションへの意識」（観光振興局）

4. 主な調査結果

■「移住意識全般」について

Q1　あなたは移住について関心がありますか。（1つだけ）
・関心がある　8.1%
・やや関心がある　8.1%
・関心とまではいかないが、気にはなっている　15.0%
となっており、全体で 31.2%の方が、移住について関心がある、気にはなっていると回答している。また、年代別では、18～34 歳は 41.2%、35～49 歳は 36.9%、50～64 歳は 32.8%、65 歳以上は 19.8%と、若い世代ほど移住に関する関心が高い。

Q2　あなたは移住を目的に下記のような行動をしたことがありますか。（1つだけ）
特段の行動をしたことがない方が 83.9%と大半を占めるが、行動したことがある人については、
1位：移住を念頭に住宅等の情報を検索したことがある　7.2%
2位：地方移住に関する情報サイトで情報の収集をしたことがある　5.9%
3位：雑誌や新聞で地方移住に関する記事を積極的に読んでいる　3.5%
となっており、他の項目も合わせた全体で 16.1%の方が移住に向け何らかの行動を起こしている。特に住宅等の情報への関心が比較的高い。

Q3　あなたが移住を考えた場合、候補地として滋賀県はどの位置付けになりますか。（1つだけ）
・最優先の候補地である 1.6%
・候補地のひとつであり、優先順位は比較的高い 7.1%
・候補地のひとつであるが、優先順位は比較的低い 11.5%
となっており、全体で 20.2%の方が滋賀県を移住の候補地と考えており、地域別でみると首都圏の 14.6%に対し、京阪神地区が 25.8%と地理的要因から比較的高い割合になっていると考えられる。

■「農山村への移住意識」について

Q4-1 コロナを機に「適度に疎で自然豊かな『農山村へ移住したい』という気持ち」は高まりましたか？（1つだけ）

- とても高まった　3.6%
- 高まった　11.6%
- 特に変化はない　84.8%

Q4-2 コロナを機に「在宅勤務やテレワークの機会が増えたことによる『農山村への移住する』可能性」は高まりましたか？（1つだけ）

- とても高まった　3.4%
- 高まった　9.2%
- 特に変化はない　87.4%

コロナを機に、農山村への移住したい意識や移住する可能性の変化について、「とても高まった」と「高まった」を合わせた割合は、「移住したい意識」が 15.4%、「移住する可能性」が 12.6%であった。年代別でみると両設問とも年代が下がるにつれ「高まった」割合が多くなっている。

Q5 農山村での暮らしを試してみる機会があるなら、参加してみたいですか？（1つだけ）

- 参加してみたい　23.9%
- 参加したくない　76.1%

地区別、男女別とも大きな差異はなかったが、年代別でみると 65 歳以上の参加してみたい方は 16.0%であったが、50～64 歳が 29.1%、35～49 歳が 25.0%、18～34 歳が 29.9%で若い世代の参加意向が高くなっている。

Q6 農山村でのお試し暮らしの中で、経験したいことはありますか。（いくつでも）
※Q5で「参加してみたい」方への質問。

1位 農作業　57.3%
2位 買い物、公共機関、医療機関等の見学　54.4%
3位 先輩移住者との交流　41.8%
4位 町内行事への参加・交流　28.9%
5位 小・中学校への見学　16.7%

「農作業」57.3%が最も多く、次いで「買い物、公共機関、医療機関等の見学」54.4%、「先輩移住者との交流」41.8%となっている。男女別でみると「町内行事への参加・交流」が男性 34.9%に対し女性が 22.1%となっている。また、年代別でみると、65 歳以上で「先輩移住者との交流」50.9%が「買い物、公共機関、医療機関等の見学」49.1%を上回っている。

■「ワーケーションへの意識」について

Q7 「ワーケーション」とはどういうものか知っていましたか。（1つだけ）

- 知っていた　21.3%
- 聞いたことはあるが、良くは知らなかった　35.0%
- 知らなかった　43.7%

「知らなかった」と「聞いたことはあるが、よく知らなかった」の合計が 78.7%でありワーケーション自体の認知度は低い。

Q8 ワーケーションを行ってみたいですか。（1つだけ）

- 行ったことがある、再度行ってみたい　0.9%

・行ったことはあるが、再度行いたいとは思わない　　0.5%
・行ったことはないが、可能であれば行ってみたい　　23.4%
・行ったことはなく、興味もない　　75.2%

「行ったことがある、再度行ってみたい」0.9%と「行ったことはないが、可能であれば行ってみたい」23.4%を合わせると、約 4 分の1の方に行いたい意向がある。世代別でみると「行ったことはないが、可能であれば行ってみたい」は 18～34 歳の若い世代が 31.4%となっており最も多い。

Q9　滋賀県で魅力的なワーケーションプランがあれば行ってみたいですか。（1つだけ）

・行ってみたい　　21.7%
・滋賀県ではワーケーションは行わない　78.3%

年代別でみると 18～34 歳の若い世代で「行ってみたい」が 28.4%となっており、他の年代よりも高い。地区別では、首都圏よりも京阪神地区の方が「行ってみたい」が多くなっている。

Q10　ワーケーションを行うに当たり、最も障壁となるものは何ですか。（1つだけ）

1 位　特に障壁はない　　37.1%
2 位　宿泊費等の費用　　18.6%
3 位　家族の都合・理解　　18.0%
4 位　住居や職場からの移動時間　13.8%
5 位　職場の理解　　8.8%

「宿泊費等の費用」「家族の都合・理解」に障壁を感じる方が、18%程度と高い。

世代別にみると、18～34 歳の若い年齢層では、障壁に「宿宿泊費等の費用」、「住居や職場からの移動時間」に次いで 3 番目が「職場の理解」となっている。